

「栽培・収穫した芋や野菜を使って『いも煮パーティー』を開こう」

—実践のなかで金銭の大切さと自分らしい使い方を考える—

東京都東村山市立秋津東小学校校長 小関 禮子

事例の 位置付け	実施学年	第5学年	☆第6学年
	教科等	総合的な学習の時間	☆総合的な学習の時間
	単元名	いも煮パーティーを通じてお金を得ることの大変さを考えよう。	

ねらい

- 1 土起こしから始め、育てた芋や野菜の値段を調べ、一般的なモノの値段について理解させる。
- 2 金銭を得ることの大変さを実感し、勤労を尊ぶ態度を養う。
- 3 金銭の大切さを認識し、限りある金銭を有効に使うとする態度を養う。
- 4 課題解決の過程で自分のよさに気づくとともに、人と豊かにかかわる喜びを味わわせる。

展開の特色

「年間を通しての扱い」…子どもたちは、教員・保護者や地域の人とともに校地の一角（元駐車場）を整地して畑を作り、芋や野菜を栽培している。サトイモは5月に植え付けをし、その後、収穫までの6ヶ月以上、水やり、見回り、草引き等を継続的に行ってきた。大根等も種をまき、大切に育ててきている。

同時にボランティア活動等にも積極的に参加して、多くの人々と触れ合い、交流の楽しさや大切さを実感してきた。知的障害者の施設に出かけて一緒に仕事をしたり、老人施設では歌や紙芝居を披露したり、車椅子体験や手話の学習をしたりした。

そこで、収穫した芋を使っていも煮会を計画し、お世話になった地域の方やおまわりさん、交流している施設の方等を招待してさらに交流を深めることにする。その過程で、芋や野菜作りにかけた時間や労力を想起し、金額

にするとどれくらいになるかも調べて、金銭を得ることの大変さを実感し、金銭を有効に使うことの大切さを改めて考えている。

「不労所得と苦労所得」…日ごろ、小遣いやお年玉という形で金銭を手にする子どもたちが、自分たちの苦労の結果である芋や野菜の値段を調べて、お金を得るために要する時間や苦労を実感し、金銭の大切さや有効な使い方を改めて考える。

構成

- 第1次 いも煮パーティーを計画しよう……………(2時間)
- 第2次 いも煮パーティーの準備・実行……………(8時間)
- 第3次 いも煮パーティーのまとめ……………(2時間) <本時2/2>

事前の準備

- ・子どもがこれまでの活動をふり返って具体的に考えられるよう、経過が分かる写真や実物を揃えておく。
- ・店頭調査や買い物体験が円滑に進むよう、家庭向けの通知を出して協力を依頼する。

本時の展開

本時の目標

- 1 近所の商店における野菜や芋の値段を調べて発表し、モノの一般的な値段についての理解を深める。
- 2 自分たちが作った野菜の数や量について、商品とするならいくらになるか計算する。

- 3 芋や野菜の栽培にかけた日数や手間と値段を比較して感想を発表することができる。
- 4 お金を有効に使うことの大切さについて理解を深める。

	学習内容	学習活動
つかかむ	1 いも煮パーティーで使った芋や野菜の栽培を思い出す。	● 芋の栽培を振り返る。 C 5月の植え付けから収穫まで6ヶ月以上かかった。
	2 買い物をしたり調べたりしたことをもとに、芋や野菜の一般的な値段を考える。	● 自分たちが作った芋や野菜がいくらになるか、スーパーのチラシや店頭調査の結果を計算し発表する。 C 八百屋の野菜は、形がきれいに揃っていて、自分たちのものはきれいではなかったがおいしかった。
	3 自分たちが作った芋や野菜について、売るといくらになるか、考える。	C 芋の値段はあまり変化がないが野菜は日によってかなり違うようだ。 C 大根は半分で売っているものもあった。ラップがびったり付いていた。 C 大根の葉は栄養があるのに売っているものには少ししか付いていなかった。 C 店によって値段の違いが大きい。 C 学校の傍のスーパーで買うなら…ということにしよう。

教師の支援、指導上の留意点	資料等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 植え付け時に、収穫までの経過や日数が分かる表を作成しておき、その都度記入しておく。 ・ 芋や野菜は収穫時に数や量を調べさせ、表にまとめて拡大しておく。 ・ 授業2週間前から実際に買い物をしたりチラシを集めたりするよう声かけをしておく。 ・ 自由な話し合いのなかで買い物の実際や、食べたときの感想などが発表されるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実物（収穫したものを残しておく） ・ 拡大図 ・ 表 ・ 写真 ・ チラシ ・ レシート
<p>*クラスの収穫量</p> <p>サトイモ 8.4kg 大根 4.5kg にんじん 1.7kg</p>	

